

安心・安全まちづくり情報

●小田原警察署 ☎320110、暮らし安全課 ☎331396

●道路横断中の高齢者交通事故が多発！

平成22年中の市内の交通事故件数は1,032件で、平成13年をピークに9年連続で減少しています。

しかし、高齢者や自転車利用者が関係する交通事故の割合は、増加傾向にあります。道路横断中の高齢者が自動車にはねられて亡くなる交通事故が、昨年11月と12月に、早川と扇町で連続して発生しました。

道路横断中の事故の多くは、午後4時から8時までの時間帯に発生しています。道路を横断するときは、安全を十分に確認し、夕方や夜間に外出するときは、目立つ色の服を着用しましょう。市販されている反射材を身につけることも効果的です。なお、車を運転する際は「人にやさしい運転」を心がけましょう。

●振り込め詐欺が増加！

小田原警察署管内では、平成22年中に15件の振り込め詐欺が発生し、被害総額は約1,000万円でした。

また県内では約780件の振り込め詐欺が発生し、被害総額は約11億円で、前年比で約3億円の増加となりました。



防犯教室(振り込め詐欺の寸劇)のようす

県警察本部によると、振り込め詐欺の手口として、警官や金融機関などの職員を装った犯人が、現金やキャッシュカードを受け取りに来る「手渡し型」が増加。また、金融機関から振り込ませる場合では、「家族への振り込みだから大丈夫と言って」などと金融機関の職員に伝える内容を、犯人が事前に指示するケースが目立っています。

振り込め詐欺は、決して他人事ではありません。もし、お金を要求する電話がかかってきたときは、慌てず、また、一人で悩まず、振り込む前に必ず警察や家族などに相談してください。

3月1日(火)〜7日(月) 春の火災予防運動

●予防課 ☎494424

3月7日の「消防記念日」にちなみ、「春の火災予防運動」が行われます。

「消防記念日」は、昭和23年3月7日に、現在の消防制度を取り決めた「消防組組織法」が施行されたことを記念して定められています。

春の火災予防運動では、火災が発生しやすい時期に、火災の発生を防止し、火災による死者や、財産の損失を防ぐため、火災予防の意識を高めていきます。



消防出初式での訓練

住宅防災 いのちを守る 7つのポイント

- 寝たばこは絶対にしない。
- ストーブの近くに燃えやすいものを置かない。
- ガスコンロなどから離れるときは、必ず火を消す。
- 寝具、衣類、カーテンに防災品を使用する。
- 住宅用火災警報器を設置する。
- 住宅用消火器を設置する。
- 高齢者や身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

初期消火活動で中学生が表彰されました!!

泉中学校2年 木村涼さん

昨年12月、近隣の家から出ている炎に、屋外の水道ホースを使い、初期消火に貢献。1月に行われた消防出初式で、消防長から感謝状が贈られました。

お父様の裕朗さんは、市消防団第13分団に所属し、出初式では、優良消防団員表彰を受賞。

日頃の火災予防への高い意識が、今回の涼さんの行動につながり、被害を最小限に抑えることができました。



出初式で表彰された木村さん

3月は「自殺対策強化月間」です！ 一人ひとりが大切な命

自殺は、人ごとではなく身近な問題です。毎年、月別自殺者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定め、全国的に「生きる支援」として重点的な広報啓発活動が展開されています。本市でも、一人一人が生き生きと輝いて暮らすことができるように、自殺対策に取り組んでいます。

健康づくり課 ☎470820

日本では、自殺者数が平成10年以降、12年連続で3万人を超える高い水準で推移する深刻な状況が続いています。そこで、自殺問題への対策として、平成18年6月に「自殺対策基本法」が成立し、さらに翌年6月には「自殺総合対策大綱」が策定され、社会的な取り組みとして自殺防止対策が推進されています。

市では平成21年度より地域自殺対策緊急強化事業を実施し、普及啓発事業（キャンペーンなど）や地域で見守る人材育成のための講演会、個別の訪問指導などの事業を行っています。

■本市の自殺者の状況

毎年約40人の尊い命が自殺によって失われ、さらに、その10倍の自殺未遂者がいると考えられています。



■1市3町（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）の自殺者の特徴

警察庁集計データ（2007～8年）によると、60歳以上のかたの割合が県内の平均と比べて高く、男性の自殺者数は、女性の約3倍となっています。

ています。
健康問題を原因とする自殺者が最も多くなっています。

■かけがえのない命を守るために、一人一人ができること！

- 声を掛ける
- 耳を傾ける
- 相談する
- 寄り添う

■自殺の3つの基本認識

○自殺は追い込まれた末の死
自殺は、個人の自由な意思や選択の結果と思われがちですが、実際は、さまざまな要因が複雑に関係して、心理的に追い込まれた末の死といえます。

○自殺は防ぐことができる
制度・慣行の見直しや相談・支援体制の整備などの社会的な取り組みと、うつ病などの精神疾患への適切な治療により、自殺を防ぐことが可能です。

○自殺を考えている人は、サインを発している
身近な人が、自殺のサインに気づいていることも多く、この気づきを自殺予防につなげていくことが大切です。

北村透谷碑を 移設しました

文化財課
☎331715



小田原城址公園内の馬屋曲輪にあった北村透谷碑は、このたび史跡小田原城跡馬屋曲輪整備事業に伴い、小田原文学館敷地内に移設しました。これを記念して除幕式と講演会を行います。

【除幕式】

日時 3月12日(土)午後1時30分から
場所 小田原文学館

【記念講演(要事前申し込み)】

日時 3月12日(土)午後2時から
場所 白秋童謡館

講師 金原左門さん(中央大学名誉教授)

演題 小田原に愛着をもった北村透谷―透谷と諭吉・尊徳・正兄と―

定員 50人・先着順

申込 3月10日(木)までに、電話で。

小田原地下街再生を目指して

小田原駅に隣接し、地域資源の発信や回遊性の向上を図る施設として、再生が期待される小田原地下街。

小田原の魅力発信、交流・人口の増加、ひいては地域経済の活性化を目指して住民と来訪者の双方が満足できる施設づくりに取り組んでいます。

企画政策課 ☎331379

小田原駅とその周辺は、富士・箱根・伊豆に通じる広域交流の玄関口であり、県西地域の住民の生活にとって重要な拠点区域です。

小田原地下街は、駅の東口にあり、中心市街地の核となる施設で、いわば「小田原の入り口」として機能し活用されるべきものであり、ここから市街地への回遊を促す重要な空間といえます。

地下街の再開にあたっては『地域資源の活用』や『回遊性の向上を図る』など、地域振興の拠点施設として新しい価値を備えた公共空間を創出することとしています。

同時に、過去の経験を踏まえ、将来を見据えた、しっかりと再生計画の策定や、運営基盤を盤石なものにするなど、十分な検討が必要です。そこで、地下街の一方の土地所有者

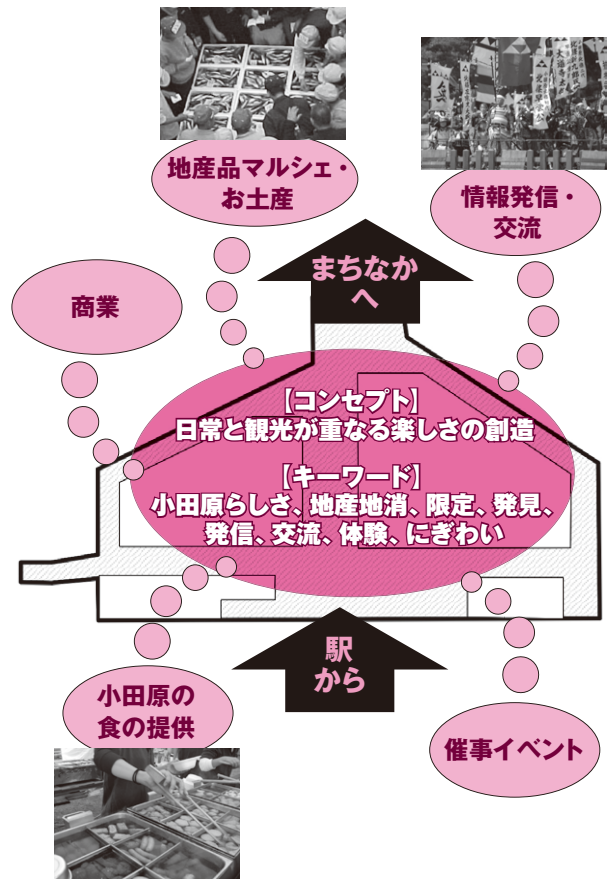


であり、地域振興・地域貢献に向けた取り組みや、商業面での経営実績・ノウハウを有するJR東日本に協力をいただきながら、小田原駅、地下街、駅ビルとその周辺商店街との連携・調和を図り、小田原の魅力を高め、ひいては本市の経済活性化につなげようという協議を重ねてきましたが、このたび、両者の間で基本合意に至りました。

平成24年度末を地下街再開の目標として、今後、JR東日本とJR東日本のグループ会社である湘南ステーションビルと連携・協力して、「地下街再生計画」を策定していきます。

具体的な事業内容などは、今後の十分な検討を踏まえ、「地下街再生計画」に盛り込んでいくこととなりますが、1日も早い地下街の再開に向けて全力で取り組んでいきます。

【小田原地下街の再生プランイメージ】



日常と観光が重なる楽しさの創造

地下街は、交流と創造の場として、「日常と観光が重なる楽しさの創造」を目標に、次に掲げる施設づくりを目指します。

① 地域住民、来訪者の両方が満足できる施設

- ◇小田原の「まち・歴史・観光など」を情報発信する「デジタルセンター」
- ◇多目的利用が可能な環境・空間となるような魅力をつくる

② 地下街での業態自体が、来訪「目的」となるような魅力をつくる

- ◇小田原らしさのある業態の創出
- ◇非日常空間を感じさせる雰囲気づくり

◇話題性・柔軟性

地下街の具体的な活用については、次のような施設（ゾーン）の配置などを再生計画に盛り込みます。

- 地域に密着した利便性と、駅前という立地を生かし、駅周辺ににぎわいをもたらすような「**商業ゾーン**」
- 日常生活に欠かすことができない生活品を取り揃えるとともに、短期催事スペースにより、「新しい特産品」を情報発信する「**地産品マルシェ・お土産ゾーン**」
- 観光客だけでなく、地域のかたも特産品をその場で楽しめる「**小田原の食の提供ゾーン**」
- 観光施設などの情報発信や観光サービスを提供する「**情報発信・交流ゾーン**」
- 各種イベントを開催し、観光客との交流を図る「**催事イベントゾーン**」

市民力

〔連載〕

市内最年少自治会長（橋岡地共同地区）
菅納さやかさん

「皆さんに助けられて…」



菅納さやかさん

25歳、市内最年少の自治会長は、すてきな雑貨で部屋を彩る、おしゃれでかわいい女性です。昨年4月、仕事との両立や年齢の面に不安はありましたが、自治会長を引き受けました。「戸惑うことばかりで皆さんに助けられています」とはにかみます。

菅納さんが、ここに暮らし始めたのは、ほんの2年前前。それ以前に職場の先輩に連れられて橋北地区の「健民祭」を訪れたことがあり、この地域のあたたかい雰囲気が入りました。



昨年の夏祭り（地域の皆さんとの楽しいひととき）

自治会長となり、より多くの人と出会い、より深くかわるべき、より地域のことを考えるようになり、菅納さんを助けてくれるかたはもちろん、掃除をするなど自ら地域のために尽力してください。かたへのありがたみに、改めて気付けられたそうです。挨拶する際の話も増え、菅納さんの、地域の人に対する気持ちの距離が縮まりました。こうして紡がれるきずなは、さまざまな地域活動をしていくうえで、とても大切な力となります。

「助けられながらですが、この経験ができたからこそ、この地域と人がもつと好きになりました。興味や関心があっても、きつかけがつかめなかつたり、健康の問題などもあり参加できないかたもいるかもしれません。でも、少しでも行事などに参加すれば、地域のことや、人のことを知ることが出来ます。それは貴重な機会なのではないでしょうか。」
生まれ育った茅ヶ崎も海が近くて大好きですが、山があり、鳥の声が聞こえる今の環境も、好きだという菅納さんの笑顔に、人への感謝があふれています。

キラキ★
若人!

チームの仲間を信じて

**オール小田原
ベースボールクラブ**

寒風吹きすさぶ夜のグラウンド。元気な掛け声と白い息。黙々と走りこむ若人たちがいます。

オール小田原ベースボールクラブは、高校野球へと続く野球技術をしつかりと教えることを目的に、平成21年4月に結成された中学生の軟式野球クラブチームです。

昨春秋に開催された西湘地区大会に優勝すると、勢いそのままに県大会でも優勝し、県代表として臨んだ関東大会でも見事勝利。今月25日から、静岡県で開催される「文部科学大臣杯第2回全日本少年春季軟式野球大会（以下、全国大会）」の出場権を獲得しました。



「勝利を勝ち取ることができました」と言います。また、副キャプテンの安田君も「チャンスの時はもちろん、負けている時も声を出し合う。チームが丸となって試合に臨んでいる」と、結束力に自信を持っています。

各地区の予選を勝ち抜いた強豪32チームが出場する全国大会では、トーナメント形式で日本一を争います。

「負けている時は試合を立て直し、攻撃を次へ、次へとつないでいきたい」とセカンドの東山君。ピッチャーの深野君も「出るからにはもちろん優勝を狙っています」と気合いが入ります。

信じあえる仲間とともに挑む大舞台で、最高の思い出を作るため、さらなるレベルアップを目指し、毎日厳しくも楽しみながら、練習に励んでいます。





小田原出身! 人気ロックバンド

市長+藍坊主

対談

小田原市、松田町出身で、青春をこの小田原で過ごした彼らの音楽は、まさしく小田原育ち。秀逸なメロディーと多くの人に共感される歌詞、ライブを積み重ね身につけた演奏力と透明感のあるボーカルが、聴く者を魅了します。デビュー10周年を迎え、昨年発売したアルバムが、オリコンチャートでトップ10入りを果たし、今年5月には、初の日本武道館ワンマンライブが決定!! 今まさに波に乗る彼らを迎え、加藤市長が対談。ファンを引きつける音楽への真摯な姿勢、彼らに影響を与えた小田原のエッセンス、青春まつただ中を過ごす若者たちへメッセージをお届けします。

藍坊主

〔ベース(リーダー)〕
藤森真一

芦子小→白山中→
西湘高
1983年3月10日
AB型



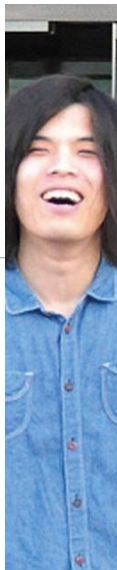
〔ボーカル〕
hojzy

泉中→相洋高
1982年6月27日
B型



〔ギター〕
田中ユウイチ

芦子小→白山中→
足柄高
1982年6月8日
B型



〔ドラムス〕
渡辺拓郎

松田町出身
1982年10月5日
O型



市長 藍坊主さんの曲を聞いたとき、ストリートに心に響く曲だと感じました。ファンを着実に増やされているのがよく分かります。音楽を始めてからこれまでを振り返っていかがですか。

藤森 音楽を始めた頃、10年先にどれだけプロに近づけるか、10年先なんて遠いと思っていましたが、やればやるほど、**目指すべき山**のてっぺんがどんどん遠くなってきているんです。でも、そんなふうはこの先10年もやっていけたらいいと思うんですよね。

市長 曲の中には、皆さんのふるさとである、小田原のことが歌われているのかなと思えるものがありますね。ここで過ごしたこと、ここにある風景は、皆さんの音楽、皆さんご自身にどのように影響していますか。
田中 小田原を離れてみて、小田原って絶妙な位置にあるって感じるんですよね。新しいもの、いわゆる主流であるものが集まる東京から、それほど離れていないので、都会的な要素もある反面、小田原にしかない小田原ならではのよさがある。僕らの音楽もまるで**小田原**のようにありたいんです。誰にでも受け入れられる分かりやすい部分もあって、でもちゃんと僕ららしさも持っていたい。小田原で育ったことがそんなふうを目指す音楽に影響しているのかも知れません。

ホジ 悲しいこと、うれしいこと、

つらいこと。もちろん小田原にもそれらがあるけど、絶望感はないんですよね。小田原では、悲しいことがあっても、絶対絶望してしまいうことはないんです。見た目じゃ分からないし、理由も分からないけど、山に囲まれている自然の力なのか、小田原で活力を感じることができて、またそこから頑張る力が湧いてくるんですよね。



渡辺 僕たち以外にも、第一線で活躍している小田原出身のミュージシャンは、実はたくさんいます。高校時代に、小田原でバンドやっていて同世代と出会って受けた刺激が、自分の音楽に強く影響しています。

市長 インディーズのころのアルバム「藍坊主」の「未成年」という曲を聞きました。皆さんと同じように、この場所を大事に思い育って欲しいと願う小田原の若者たちにメッセージをいただけますか。

藤森 自分が幼かった頃を振り返る

と、周りの大人たちがいろいろ許してくれていたなあって思う部分が多いです。大きな器みたいな小田原の環境の中で、自分がやりたいことをやって、自分の道を探してください。

ホジ 高校時代、事あるごとに「青春だよな」なんて言う友人がいて、それは大事なことで、アグレッシブに毎日を生きられていた気がしています。「今」は一度きりしかないとを忘れないでください。

渡辺 僕は音楽に出会って、人生が変わりました。人とのつながりもでき、友達もたくさんできました。僕にとつて音楽がそうだったように、一つ一つ取り組んでいる目の前のごとが、人生を変えることになるかもしれないんだって、大切にしたいってください。

田中 小田原には、自然も遊ぶところもあるから、自分から何かを始めなくても、何となく楽しく過ごせるかもしれません。でも、僕らが高校を卒業した頃に、ライブイベントを企画して、いろんな人と触れ合えたように、小田原の過ごしやすさに甘んじることなく、自分から何かを始めて欲しいです。

市長 皆さんは小田原を元気にする、本場に貴重な存在です。今後も活動を通じて小田原に元気を注いでいただきたいと願っています。応援していますので、頑張ってください。本日はありがとうございます。

藍坊主 ありがとうございます。

5/6(金) 初 武道館ワンマンライブ 「藍空大音楽祭 ~ the very best of aobozu」

武道館に藍坊主を!! 見に行こうよ♪聴きに行こうよ♪

【日時】5月6日(金) 午後5時30分開場 6時30分開演
【場所】日本武道館(東京都千代田区)

【チケット(全席指定)】前売り4,800円
3月12日(土)午前10時~ チケットぴあ、ローソンチケット、イープラスの各プレイガイドで発売。

【問い合わせ】スーパーキャスト ☎03-5573-2299



Mayor + aobozu
have a talk with the Mayor of Odawara



〈連載〉

あの日あのとき 小田原

最終回

市制施行から70年という節目の今年。

先人の営みより継承されたもの、自然事象とともに刻んだ足跡、古きよき故郷の懐かしい面影など、小田原の歴史には「無尽蔵の市民力」へとつながることがたくさんあります。

ここでは、そうした記録と記憶をたどります。

小田原のにぎわいを担ってきた商店街



懐かしい商店街のようす (銀座通り・1959年)

現在、鉄道5社が乗り入れ、1日約19万人の乗降客を数える小田原駅。駅周辺の中心市街地は県西部の商業の中心として発展してきました。懐かしいアーケードや趣のある商店が立ち並ぶ写真には、行き交う人々の姿が写り、戦後の日本の高度経済成長長期のにぎわいを知ることが出来ます。



懐かしい商店街のようす (仲見世商店街・1968年)

大型ショッピングデパートの進出

1968年には丸井、志澤、1972年にはニチイ、ナックといった大型ショッピングデパートがオープンし、まちの雰囲気も様変わりしました。

また、1976年には「アミーおだちか」の愛称で親しまれた小田原地下街が整備され、中心市街地はさらに、にぎわいを見せました。

近年は景気の低迷により大型ショッピングデパートの閉店が相次ぎましたが、2005年には、かねてより市民が期待を寄せていた「駅ビル」ラスカがオープンしました。



駅周辺には大型ショッピングデパートが並びました (1976年)

小田原地下街 再生への道のり

県内では横浜駅に次いで2番目に完成した地下街でしたが、残念ながら2007年に売り上げの減少により、市民に惜しまれつつ閉店してしまいました。2009年には、市民や有識者で構成された「小田原駅・小田原城周辺まちづくり検討委員会」から、地下街の再生に向けた活用方法が提言され、現在、再開に向けた、取り組みが始まりました。



小田原地下街工事のようす (1975年)



小田原地下街のにぎわい

小田原地下街をはじめ駅周辺の商店街は、まさに小田原の顔。住む人、訪れる人を迎えるのにふさわしい表情を目指した、新しい小田原づくりが始まっています。

表紙の言葉

印刷局の桜

小田原ふるさとの原風景百選 No.82

昭和16(1941)年に開業した、国立印刷局小田原工場では製紙から印刷までの一貫した紙幣づくりをしています。酒匂川の水を富士道橋下流から取水し、工場に配水する一直線の道は通称「水道道」と呼ばれ、市民に親しまれています。

工場正門へと続く桜は見事。毎年開花時期に催される観桜会では工場内の一部が一般開放されます。

